

# 音楽科 学習指導案

公開学級 第1学年 3組 (28人)

場所 南舎4階 音楽室

授業者 濱嶋 陽

## 1 題材名

朝の風に

## 2 本時のねらい

主旋律と副旋律の役割をもとに、旋律の重なり方の違いを意識しながら、各声部の歌い方を工夫することができる。  
(思考・判断・表現)

## 3 本時の展開 (2/3)

過程	学習内容	研究に関わる手立て
導入	<p>1 前回の学習を振り返る。●</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 男声パートと女声パートがある混声合唱。</li> <li>・ 主旋律が男声と女声で入れ替わる。</li> <li>・ 1段目と2段目を比べると、2段目には男声も入るから響きの厚みがある。</li> </ul>	<p><b>研究内容2—①</b></p> <p>課題解決の見通しをもつ手立て</p> <p>1学期に既習のテクスチャ・掛け合いが示された掲示物を用意し課題解決の見通しがもてるようにする。</p>
	<p>主旋律と副旋律の重なり方を捉えて、3段目・4段目の表現を工夫しよう</p>	
展開	<p>2 3段目・4段目について、主旋律と副旋律の役割を基にどのように表現すると良いかを個人で考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 男声は主旋律で女声は副旋律だから、違いが付けられるように表現したい。</li> <li>・ 男声は伸ばしている歌詞に対して女声が重ねてリズムが追いかけているようになっているから、重なるように歌いたいし、同じリズムのところもあるのでそこはしっかりと揃えたい。</li> </ul> <p>3 表現の工夫点を意識して、班で3・4段目を練習する。●</p> <p>(自分たちの歌声を録音して、表現の仕方を確かめながら練習する)</p> <p>4 抽出班の発表を聴く。●</p> <p>(主旋律・副旋律の役割と重なり方の違いについて考えられて表現できている班を抽出する)</p> <p>5 もう一度自分の班に付け足したいことを確認して練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主旋律と副旋律の役割は考えられたが、○班の発表を聴いて、歌詞を伸ばしているところは途中で切らずに伸ばすと、重なり方の違いがはっきりすると思った。</li> </ul>	<p><b>研究内容2—②</b></p> <p>自己調整できる場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人で考えてから班で練習することによって、一人ひとりが表現方法について工夫することができるようにする。</li> <li>・ 主旋律・副旋律の役割や重なり方の違いについて考えられている班を抽出する。教員の提示する演奏との違いを考えることによって、自分たちとの表現の違いや新たに取り入れたい点に気付くことができるようにする。</li> </ul>
終末	<p>6 前時に録音したものと比較し、本時の学習の成果を確認するために録音する。●</p> <p>7 本時の振り返りを記入する。</p>	<p><b>研究内容2—③</b></p> <p>自己の変容を実感できる手立て</p> <p>前時に録音したものと比較することによって、表現の工夫の変容を実感することができるようにする。</p>
	<p><b>本時のまとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最初は、それぞれのパートが大きな声で歌っていたが、○班の発表を聞いたり自分たちで考えたりしたことで、男声は主旋律で女声が副旋律なので、女声は少し優しく表現することができた。また掛け合いがきれいに聴こえるために、同じリズムのところを揃えられるように練習することができた。</li> </ul>	<p><b>評価規準</b></p> <p>主旋律と副旋律の役割と、旋律の重なり方の違いを知覚し、主旋律と副旋律の違いを付けたい、同じリズムの箇所をそろえて歌いたいなど歌唱に対する思いや意図をもっている。</p>

動機づけ

自己調整

終末

自己の変容を実感

## 終末

## 第3時

5段目の表現方法を2段目と比較しながら考えよう。

- 5段目についてどのような旋律の重なり方になっているかを2段目と比較しながら考える。
- 前時まで生活班で練習したことをもとに、全体で歌う。

## 終末時の手立て

- 音色、旋律、テクスチュアに分類してそれぞれの特徴を板書してまとめ、留意点の視覚化を図る。
- 2段目と5段目との比較をすることによって、主旋律と副旋律との音の重なりを実感することができるようにし、全体で歌うこと・表現を工夫する楽しさを味わう事ができるようにする。

## 展開

## 第2時【本時】

主旋律と副旋律の重なり方を捉えて、

3段目・4段目の表現を工夫しよう

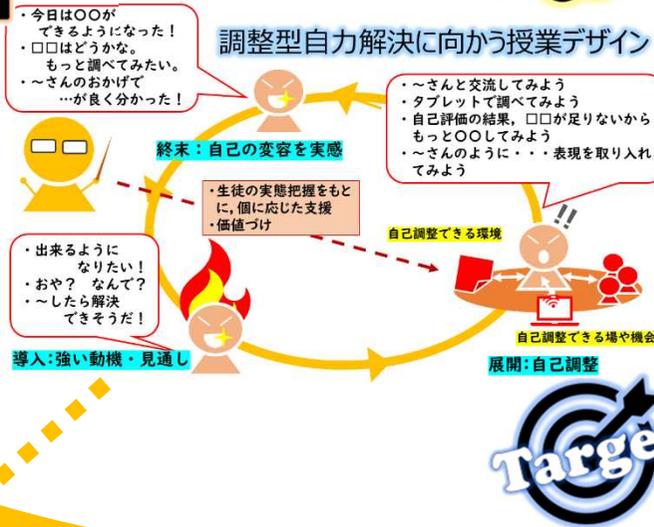
- 3段目・4段目について、主旋律と副旋律の役割を基にどのように表現すると良いかを個人で考え、練習して生活班で発表する。
- 抽出班の発表を聴き、自分の班につけたしたいことを確認して練習する。
- 前時の録音と比較し、本時の学習の成果を確認する。

## 学習後の生徒の姿（調整型自力解決）

主旋律と副旋律の役割や音の重なり方の特徴を捉えたと表現の幅が広がるということが分かった。この学習を基に合唱交流会の曲でも表現の工夫をしていきたい。

## 音楽科における調整型自力解決

- 幅広い活動を通して音楽的な見方・考え方を働かせていくことができる力。
- 自らの音楽的な見方・考え方を基に様々な意見を受け入れ自分の見聞を広げ親しんでいく力。



## 題材の課題 パートの役割を感じ取って合唱しよう

## 導入 第1時

パートの役割を確認し、1段目と2段目の響きの違いを考えよう

- 曲想や旋律の特徴を捉える。
- 女声と男声に分かれて音を確認しながら歌う。
- 1段目、2段目の響きの違いについて考える。

## 導入時の手立て

- CD やタブレット上で何度でも音源を聴き直せるような環境づくりを行う。
- 旋律の動きや休符の存在を確認できるよう楽譜を拡大コピーして提示し書き込めるようにする。

## Unit を通した手立て

- 1学期に既習のテクスチュア・掛け合いが示された掲示物を用意し課題解決の見通しがもてるようにする。
- 個人で考えてから班で練習することによって、一人ひとりが表現方法について工夫することができるようにする。
- 主旋律・副旋律の役割や重なり方の違いについて考えられている班を抽出する。教員の提示する演奏との違いを考えることによって、自分たちとの表現の違いや新たに取り入れたい点に気付かせる。
- 前時に録音したものと比較することによって、表現の工夫の変容を実感することができるようにする。